

一般質問

佐々木 常子 議員

質問の
ねらい

安心・安全の当別町に

住民の皆様が暮らしやすい良い町にしていくためには、住民参加のまちづくり地域コミュニティの活性化が大切である。昨年も今年も大雪となり、除排雪が間に合わない危険な状態もあった。除排雪体制の改善が

必要である。共通した課題もあるが、地域ごとの課題もある。豪雪地帯の当別町で暮らしていくには除排雪の問題は大きく、今までも地域での助け合いはあったが、行政と力を合わせて新たな体制の構築を図りたい。

ここが
聞きたい

除排雪の改善が必要

問 あまりにも除排雪作業が間に合っていない。生活道路の幅も狭く、大きく波打って厚みが1mにもなる地域もあった。どうにか業者を増やすことはできないのか。

答 除排雪の最大の課題は、事業者不足、マンパワー不足と認識。来シーズンは、事業者や人員の確保に向けて、当別環境整備協同組合、当別町除排雪連絡協議会と早々に協議していきたい。

ここが
聞きたい

町民の力を

問 除雪機を持っている個人に補助金を払い、その地域の除雪をお願いすることはできないか。

答 過去にも協議したことがあるが、事故を起こした時の責任問題や保険関係など、さまざまな問題が混在しているため、実施は難しい状況にあると考えている。

ここが
聞きたい

重くのしかかる置き雪

問 多くの町民から置き雪の処理に困っているとの声が寄せられている。費用負担をしてでも何とかならないかとの声もある。歩道用除雪機を使う等、各家庭の出入口を開けることはできないか。

答 置き雪は必ず生じるので、各家庭のご協力をお願いしている状況。来シーズンは、町内会への除雪機貸与を間口除雪にも拡大できないか等、冬の生活を快適に過ごせるよう研究を進めていく。



道路の雪の状況

ここが
聞きたい

動物愛護管理思想の推進

問 道は、多くの関係団体が連携して、動物愛護思想の推進に取り組む機運を醸成していくとのこと。当別町においても野良猫を救う具体的な仕組み、方法、手順などを構築すべきでは。

答 関係団体との連携は大切であるので、道の動向を注視していく。町による保護等は現在考えていないが、動物を飼う方のマナーやモラルが、さらに向上されるように広報で周知していきたい。

ここが
聞きたい

道動物愛護管理センター

問 道は動物愛護管理センター開設の方針を固め、2023年度の本格運用を目指すとして発表。多くのことはできなくとも、町として野良猫の避妊去勢手術の助成金を出すことなどはできないか。

答 除排雪等との優先度の問題があり、住民のニーズがどこにあるか総合的に判断していかなければならない。この件に関しては、現段階で、町として取り組みを行う段階ではないと判断した。

一般質問

鈴木 岩夫 議員



質問の
ねらい

町の将来の問題、町挙げて運動を

水田活用の直接支払交付金見直しは、農業関係者のみならず不安を与えている。不安の解消と地域・集落の維持・継続にも視点を当てた解決が求められることから、町挙げて運動すべきと質した。感染拡大が継続

している。オミクロン株の特性に応じた保健医療体制の構築について質した。ゼロカーボン推進計画では、風力発電についてどのように考えていくのか質した。



頭を垂れる稲穂

ここが
聞きたい

町挙げて運動を

問 今回の急な政策転換は、離農者の増加による地域崩壊に繋がりがねないものである。当別町の将来がかかった問題であることから、町挙げて運動をすべきでは。

答 基幹産業を農業とする多くの道内自治体にとって大きな問題。一自治体で行動するよりも、道や町村会と連携し、オール北海道で行動するほうが効果的なため、他団体と連携して対応していく。

ここが
聞きたい

リーダーシップ発揮を

問 12月議会では、米政策見直しに対する意見書を採択し、全道全国の農家や議会に勇気を与えた。オール北海道で取り組む場合、当別町がリーダーシップを取り、北海道を引っ張っていく考えは。

答 あらゆる機会を通じ、国に対して激変緩和の対応についてお願いしていく考え。農業関係団体の皆様とも協議しながら一緒に行動していきたい。

ここが
聞きたい

今一度強いメッセージを

問 オミクロン株「BA.2」への置き換わりについて、3月末から4月にかけて懸念されている。医療ひっ迫の現状を踏まえ、今一度、町長から強いメッセージを発信すべきでは。

答 メッセージの発信については、総合的に正確な知見を得た中で、適切に対応をしたいと考えている。町内の具体的な感染状況を分析して、どうするのか発信をしていきたい。

ここが
聞きたい

国保税の引き下げを

問 今議会で提出された国保特別会計補正予算では、国民健康保険財政運営基金積立金として、4,500万円が計上された。令和4年度の国保税は基金を取り崩し、引き上げを止めるべきでは。

答 令和4年度の国民健康保険税の改定では、資産割の廃止、賦課限度額見直し等の影響もあり、国保加入世帯の所得にもよるが、全般的に国保税が下がる傾向であるため、基金取り崩しはしない。

ここが
聞きたい

風力発電は含むべきではない

問 新規事業のゼロカーボン推進計画の策定では、風力発電について、どのように考えていくのか。

風力など技術革新による新しい方法も考えられる。しかし、健康被害や景観、環境への影響がある場合は考える必要があるため、町民や議会の動向に配慮して計画づくりを進めていきたい。

答 風力も重要な自然エネルギー。除外は考えていない。少低周波音の小型



一般質問

山崎 公司 議員

質問の
ねらい

スウェーデン大通の歩道整備を

スウェーデン大通は、開通から29年が経過。道路両面の歩道はデコボコ状態。歩道の改修計画と無電柱化を提案して、検討するよう質した。また、新型コロナウイルスが道内で確認されて2年が経過したが、

長引くコロナ禍による町内の課題に対して、どのように対応しているのか質した。さらに、令和3年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果と課題解決方法について質した。

ここが
聞きたい

歩道の整備を

問

歩道の電柱や植樹は、強風で倒れたり、除雪作業の障害となる。歩道整備にあたり、植樹は伐採や間引き、品種変更等、電柱は撤去し街路灯のみにするなど、住民の声を聴いて検討しては。

答

歩道はインターロッキングブロックかアスファルトか、電柱や街路樹にも住民の多様な意見があると思うので、西当別連絡協議会など地域の意見をくみ取り、方向性を確認して進めていく。



歩道の植樹や電柱 (本人提供)

ここが
聞きたい

無電柱化を

問

無電柱化は、電柱倒壊の危険がなくなったり、歩道幅が広がるなど、防災や交通確保、景観形成、観光振興などの面でメリットがある。スウェーデン大通の無電柱化を検討しては。

答

無電柱化は、防災や景観などの観点から、近年その必要性が高まっていると認識。しかし、費用や維持管理、権利者との調整など地域の合意形成が課題であり、現時点で導入は考えていない。

ここが
聞きたい

感染予防対策を

問

町内のコロナ感染者が1月132人、2月127人と急増している。小中学校、役場庁舎、高齢者施設では予防対策をどのように徹底しているのか。

答

発熱等の症状が出た場合、学校では速やかに出席停止や学級閉鎖等の処置、役場では自宅での経過観察や検査、高齢者施設では、検査や保健所の助言を受けるなどの対策を徹底している。

ここが
聞きたい

今後の感染対応策

問

新型コロナウイルス感染症に収束の気配がない。給付金やワクチン接種を進めているが、次々にやってくる感染の波に対して、今後どのように対応したら良いと考えているか。

答

ワクチン3回目接種の計画的実施、高齢者施設等のクラスター防止、手洗い、マスク、3密回避など基本の徹底が重要。また、国などの支援策と合わせ、町も必要な施策を実施する考えである。

ここが
聞きたい

全国体力テスト

問

令和3年度の小中学校の全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果は。

答

体格は全国平均以上、運動能力は平均とほぼ同レベル、習慣等では運動

に対して児童生徒の前向きな姿勢が明らかになった。反面、スマホ等メディアに触れる時間が長いという課題が浮き彫りになった。体力向上プランを軸に、家庭、地域、学校と一体となり児童生徒の健全育成を進めたい。

一般質問

稲村 勝俊 議員



質問の
ねらい

次世代に継承可能な農業政策を！

当別町農業の現状、水田活用の直接支払交付金の見直しにより想定される影響と対応、人・農地プラン実質化に向けた基礎調査や課題の検証、生産性が高い地域農業を持続可能なものとするために、当別町農業

の将来像について地域の合意形成を図り共通認識としていく農業政策について質した。

ここが
聞きたい

人・農地プラン実質化は

問

農地集約化に関する将来的な方針を作成する「人・農地プラン実質化」について、令和2年から基礎調査を行っているが、概要と特徴的な傾向や課題は。

答

町内 19 地区中 2 地区は 10 年以内に 10 名以上が離農予定。農業者全体のうち後継者がいない 60 代以上が 3 割。交付金見直し前の調査のため、現状はより厳しさを増していると思われる。



田植えの様子

ここが
聞きたい

農地基盤整備の取り組み

問

担い手が減少する中、効率的な土地利用が持続可能な当別町農業を可能にする。技術革新が急進する農業の継承に最も必要で基礎となる農地の基盤整備を行うべきでは。

答

町としては、将来の農業につなげていくためにも、基盤整備に取り組んでいく考えだが、補助の在り方については、関係団体や農家の皆さんと協議をする中で、どうあるべきか考えていきたい。

ここが
聞きたい

地域計画の策定は

問

水田活用直接支払交付金の見直しによるさまざまな課題がある中で、地域の合意形成の進捗が懸念される。対応方向との連動、整合性の考え方など地域計画策定の取り組みは。

答

人・農地プランは、制度改正が行われる見通し。改正内容を踏まえ、町としても大変革となる水田活用の直接支払交付金に即した地域計画を策定し、必要な対策を講じていく。

ここが
聞きたい

当別町農業の将来像

問

自己選択、自己責任の原則ではあるが、厳しい農政の転換期、さまざまな課題の中で、将来構想を広い世代からの合意形成を図り、共通認識としていくことが大切では。

答

転換期だからこそ、課題や方向性について農業者が地域で話し合い、共通認識を持つことが肝要。農業 10 年ビジョンも、将来担い手となる方など幅広い世代の意見を聞き改定していきたい。



稲刈りの様子



一般質問

佐藤 立 議員

質問の
ねらい

公園遊具整備の早期再開を

公園施設の大半で老朽化が進んでいることから、平成29～令和8年度までの10カ年の公園施設長寿命化計画に基づき、遊具等の更新に取り組んでいる。これまでに阿蘇公園とライラック公園に大型コンビネー

ション遊具が設置された。しかし、令和3年度から同計画に基づく事業が予算化されていないことから、今後の方針を伺う。また、子どもの読書活動を支える図書館や学校等の体制のさらなる充実について伺う。

ここが
聞きたい

遊具の整備を進めるのか

問 公園施設長寿命化計画に基づく公園遊具等の整備に関する予算が、令和4年度当初予算に計上されていない理由は何か。

答 計上したい思いはあったが、町全体の予算配分を精査する中で、やむを得なかった。令和5年度の事業実施に向けて取り進めていきたい。

ここが
聞きたい

あいあい公園等の整備は

問 公園施設長寿命化計画は令和8年度までの計画。計画に記載されている未実施の阿蘇公園の修景^{※1}施設（池）等、あいあい公園・もみじ公園・栄公園の遊具等は期間内に実施されるのか。

答 期間内での実施が基本だが、総合的に施策展開する中で、やむを得ず未着手とすることもある。次期計画に改めてスライドさせる必要が生じた場合は、都度判断していく。

ここが
聞きたい

コロナ休館中の図書貸出

問 新型コロナウイルス感染症による休館中、図書館では予約図書の貸出を火～金曜日の10～12時に行っていた。今後は、より利用しやすい貸出時間とすることが必要ではないか。

答 利用者の都合を聞き、10～12時以外でも対応していた。貸出時間の周知は、もう一工夫必要と考えている。今後、同様の事態となった場合には、より利用しやすい時間となるよう努めたい。



当別町図書館内部（錦町）

ここが
聞きたい

幼児期の読書推進の重要性

問 「当別町子どもの読書活動推進計画（第3次計画）」は、前計画と比べ、幼保小中の区別、保育施設に関する言及がないが、幼児期の読書活動推進の重要性や優先度に何ら変わりはないか。

答 幼保小中一貫の観点から一本化したことや、読書の意義について施策中心に記載するよう変更したために生じたもの。保育施設の重要性、優先度の考え方は変わらない。

ここが
聞きたい

学校司書配置を目指すのか

問 「当別町子どもの読書活動推進計画（第3次計画）」に明記はないが、学校司書配置について可能な限り配置を目指すという考え方に変わりはないか。

答 学校司書の重要性や優先度については何ら変わらない。学校司書の重要性は認識しており、配置を目指して取り組んでいきたい。

※1 修景…都市計画や道路計画などで、自然の美しさを損なわないように風景や景観を整備すること。

一般質問

櫻井 紀栄 議員

質問の
ねらい

子育て世帯の支援にリアルな声を

出産に関する指標とされる15～49歳の女性の人口が5年間で15%減となっている。人口増加のための事業成果が十分に挙げられていない可能性が高く、事業の見直しや検討が再度必要であると考え、①確実に

事業を実施できるよう予算の在り方の見直しと新しい仕組みづくり、②MY助産師制度による妊娠、出産、産後の継続ケア、③読書離れ解決へ子どもの興味、関心を考慮した取り組みの3点について質した。



次のページは

ここが
聞きたい

町民提案方式で事業実施を

問 優先度が低く予算が付かなかった事業などは、クラウドファンディング方式のふるさと納税で資金を集めて、町民が使い道を提案する仕組みを構築すべきでは。

答 ふるさと納税の活用については、町民や議会の意見を踏まえ、まちづくりに資するものとして、町が総合的に判断して事業に充当している。今後もその考え方を基に活用していく。

ここが
聞きたい

母子にとって有効な支援が

問 国の令和4年度予算案に、地域における妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援等の推進とあるが、当別町ではどのように取り入れていくのか。

答 令和4年度から産後ケア事業を開始し、母子への心身ケアや育児サポートなど、安心して子育てができる体制確保に向け、医療機関や助産師等と連携し、切れ目のない支援を目指していく。

ここが
聞きたい

助産師による継続ケアを

問 妊娠、出産、産後、育児まで継続的に関わることが何より重要。同じ助産師による継続ケアを受けたいとの声も多くあるが、継続ケアの重要性についての考えは。

答 必ずしも同じ助産師のケアが必要とは感じていない。町内に出産施設はないが、妊婦の希望や状態に合った産婦人科等が選びやすい地域であり、必要なケアは受けられていると考えている。

ここが
聞きたい

当別 MY 助産師制度導入へ

問 助産師による妊娠中の保健指導や訪問事業について、チャットや会議ツールなどを用いて、24時間オンライン相談ができる産前産後サポート事業が必要では。

答 令和4年度から産後ケア事業を実施する他、これまで同様に保健師への相談ができる状況。また、救急安心センターさっぽろの電話相談は、24時間利用できるものとなっている。

ここが
聞きたい

ブックスタートの見直しを

問 子どもが本に親しむには、おもちゃとして気軽に触れることが効果的。ブックスタート事業で、おもちゃ絵本1冊か絵本2冊、どちらが良いか選べるようにするなど試験的に実施しては。

答 贈呈する絵本は、有識者や司書教諭、保育教諭、読み聞かせボランティアからなる当別町子ども読書活動推進委員会で選定しているので、その決定に委ねたいと考えている。



お風呂でも読めるビニール製の絵本（本人提供）

議案の審議結果
定例会では、
質疑や討論と採決が行われました。